

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(5/19)

文・写真：武田、写真：薦田、山國、豊田、井上

日時：2019(令和元)年 6月 16日(日) 9:30～15:30

気象：天候=晴

活動エリア：「44林班ろ」、並びに東海自然歩道周辺

活動内容：「44林班ろ」内の林床整備(枯損木・倒木・中折れ木の除伐、作業道補修)、東海自然歩道の補修(水切り溝掘り返しと歩道の整備)

参加者：泉家恵子、斧田一陽、小櫃徹夫、倉谷邦雄、黒山泰弘、薦田佳一、武田壽夫、
中村賢三、福西勇之助、宮本 廣、茂木完治、山田真也、山 國 計 13名

<父の日、今日も「山は呼んでいる」>

北九州から近畿の瀬戸内海を囲む各地の梅雨入りは例年になく遅れている。東海や関東は平年並みの6月8日には梅雨に入り、それでも近畿に前線がかからないのは大陸の高気圧が強いのか太平洋の頑張り不足なのか、この分だと逆に梅雨末期の大雨が懸念される。(近畿の梅雨入りは6/26、平年比19日遅れ、昨年比21日遅れ、とのこと)。それでなくても一年前の大阪北部地震(H30.06.18)、台風21号(09.04神戸再上陸)と矢継ぎ早に災禍を蒙ったこの山域である。今日の活動地もそこら中が爪跡だらけで、その様子は写真をご参照。

即ち、水源への作業道は山腹の表土が滑り落ちて狭まり、或いは崩落しているし、山腹の放置木は谷へズリ落ちている、おまけに急傾斜地で足下は崩れ易い真砂土混じりまじりという厄介この上ないエリアである。ここは11名が林床整備と作業道の整備、他の2名は東海自然歩道の補修へと向う。

注意事項—枝掛りのまま残置した**危険木は「赤テープ」**で明示すること

—中径木以上の伐倒は必ず**ロープ掛け**し、伐倒方向を**确实・安全なもの**とすること

—お互い、声をかけあって**「安全第一」**で

使い古しの歯ブラシ(硬め)供出願—チェーンソーの手入れに使用、参加の際、持参頂ければ幸い。

<今日の成果>

林床整備は荒れが酷い上、急傾斜で足下も崩れ易い中、15m×25mの範囲を綺麗に、作業道は崩落箇所など25mを補修。自然歩道では14ヶ所の水切り溝を掘り返し、急坂に設置された階段数ヶ所を整備。このエリアの魅力は風通しがよいこと、好天、気温も上がらずの一日だった。

<山の生きものたち>

豊田会員からは川久保溪谷の羽化したばかり(らしい)キアシドクガ、HP掲載の労をとって頂いている井上会員からは大日岳に発する長良川源流域の「夫婦滝」、落差は17m。本山寺山では苔むした根っ子の間から芽吹いている**幼樹**(森を守るに手入れは大事)

(本文 終り)

<集合写真>



<活動地要図>



<倒木累々の溪筋>



<作業道の崩落箇所>



<修復した道を通って帰途へ>



<長良川源流域の「夫婦滝」>



<斜面に落ち重なった倒木>



<左の整備後>



<自然歩道の崩れた急登部>



<左の補修後>



<キアシドクガ>



<根っ子の中から芽吹いている幼樹>

